

令和8年度 静岡県立富士宮北高等学校 入学式式辞

中央道の両側に、美しく咲く桜並木がみなさんの入学を祝福するように咲き誇っています。今日は、しっとりと落ち着いた趣(おもむき)のある、良き日を迎えました。

本日ここに、静岡県立富士宮北高等学校・令和八年度入学式を挙げるに当たり、PTA会長様、本校同窓会長様、本校後援会長様、富士特別支援学校長様、同窓会役員様の御臨席を賜り、保護者の皆様共々、このように新入生の皆さんを祝福できますことは、私ども職員、在校生にとりましても、この上ない喜びであり、御参列いただきました皆様方に対し、心から御礼申し上げます。

さて、ただいま入学を許可いたしました普通科126名、商業科80名の皆さん、入学おめでとう。教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎します。皆さんが入学した本校では、昭和十二年、郷土が生んだ稀代の実業家、望月軍四郎が、地域社会に貢献できる人材を育成したい、との強いお気持ちから、私財を投じて設立した「静岡県大宮商業学校・大宮工業学校」に始まりました。その後、昭和二十八年に静岡県に移管され、県立高等学校となり、現在に至ります。今年で、創立八十九年目を迎える、歴史と伝統のある学校であり、開校以来多くの生徒たちが、勉学に、学校行事に、部活動に情熱を注ぎ巣立っていきました。また、公立の高等学校としては類を見ない自然豊かな広大な敷地に、多くの校舎や運動施設を有しており、充実した学びに取り組める、恵まれた環境となっています。皆さんの学ぶ教室棟は、昨年度から新たな校舎となり、まだまだ新しさを維持しています。このような伝統と環境を持った本校の新たな一員となった自覚を深めてもらいたいと思います。

本校の校訓は、「覇気・信念・明朗」です。これは、創始者、望月軍四郎が、「日常生活をするために、大切なことは、明朗な性格であり、職業人としては、一つの堅い信念を持って、実行し、人生意気に感じたならば、仕事を完成させる覇気が大切で、これこそ人間形成の根幹である」と伝えたという教えに基づいています。これは、実業家として、言い換えれば、社会の最前線で働くものとしての基本を説いていると考えています。

この校訓を踏まえ、新入生の皆さんが本校での生活をスタートするにあたって、校長として、改めてなぜ本校に入学したのかと問いたいと思います。

九年間の義務教育を終えられたみなさんは、高校に入って、新たな友人との出会いや、部活動など、新しい学びや人生の探究に大きく胸を膨らませていると思いますし、世界がうんと広がる、そんな予感もあることでしょう。しかし、ここで高校での生活は当たり前で送れると思わずに一度立ち止まってください。「あなたは高校で何がしたい」のでしょうか。

校訓と照らし合わせながら、考えてみましょう。「覇気」を身に付けるとはどういうことでしょうか。これまで、皆さんの先輩たちを見ていると、常に、何かひとつのことに真剣に向き合っており、その前提として「自分の意志」で「何かひとつ」決めることが全ての始まりとなっています。自分の意志で決めたなら、自ら計画し、実行し、時には周囲と協働しながら、自分と向き合ってほしい。時には、失敗もするでしょうし、困難なことも立ちふさがります。しかし、自分が選んだことを「したいからする」のだと言い切る気持ちで、未来を切り拓くための、あなたたち自身のエンジンを大きくし、それこそが覇気を身に付けることとなります。

「信念」はどうすれば身につくのでしょうか。発達心理学者のエリクソンは、あなたたち、青年期の高校生段階の最も大切な課題は、自分自身、いわゆるアイデンティティの確立であるといいました。なぜ、この時期に自分自身を確立していくことになるのでしょうか。それは、これから、大人への更なる身体的成長、将来への決断を迫られる社会的な人間としての自分自身へのリフレクション、そして、「自分が思う自分」と「他人からどう見られているか」を比較するというメタ認知が発達し、「悩む知性が備わる」時期だからにほかなりません。

そうです、「信念」は大いに悩むことで身につくのです。そのためには、知性を磨いてください。そして、そのために、心を律して、すべてを学びに変える素直な心をはぐくんでください。

最後に「明朗」です。これはみなさん、本校の生徒の真骨頂であってほしいと願うものです。明るく、朗らかとはどういうことでしょうか。みなさんは、明朗をどうイメージしますか。元気で、前向きな印象のある言葉ですね。

今年、富士宮北高校は、学校として社会に愛される18歳を育成したいと掲げています。

少し気の早い話に聞こえるかもしれませんが、わたしたちは、将来みなさんが社会で可愛がられるようみなさんを成長させていきます。社会で可愛がられるとはどういうことか、それは、「当たり前の方が当たり前ができる」ことです。人に会ったら、笑顔であいさつする。自分なりの表現で、相手とコミュニケーションとれる。ルールをしっかり守ることができる。チームのことを思い、協力することができる。このような、当たり前のことを、誠実に当たり前ができる。これこそが、「明朗」を身に付け、社会に愛される人を作ることでありと考えています。

鷲田清一（わしだきよかず）という哲学者が、ある入学式で芸術家の言葉を紹介しています。それは「経験から学ぶことは大切です。でも、それでは小さすぎるんです。」というつぶやきです。自らの経験や、与えられる経験では、自分という器を大きくすることはできません。自分の知らない自分に出会

うためには、これまでに話したことのない人と話し、見たことのないものを見に行き、聞いたことのないことに耳を傾けてください。

この問いかけは、自分への問いであり、答えがないがゆえに、時に迷い、時に独りぼっちだと孤独を感じてしまうこともあるでしょう。そんなときは、人に頼りましょう。後ろからそっと支えてくれているご家族、地域の方々、頼もしい先生方がサポートしてくれます。

最後になりましたが、保護者の皆様一言御挨拶を申し上げます。本日は、お子様の御入学本当におめでとうございます。ただいま申し上げましたように、お子様が、この高校3年間に確かな手応えをつかみ、社会に向かって新たな旅立ちができますよう、職員一同、全力を尽くしてまいります。皆様もおそらく経験されたように、高校生活は決して楽しいことばかりではありません。また、心身ともに揺れ動く時期でもあります。そのようなとき、保護者の皆様の愛情こそが第一の支えであります。同時にそのもとから旅立つ準備をする時期でもあります。学校と御家庭とが互いに信頼し、連携し合っこそ、お子様の確かな成長が約束されると考えます。皆様からの信頼をいただけますよう、精一杯努めますので、どうぞ、御支援と御協力をお願いいたします。

本日入学された206名の皆さんが、3年間に確かな成長を遂げることを心から期待して、式辞いたします。

令和八年四月七日

静岡県立富士宮北高等学校 校長 小谷 和之